

授業科目名	現代社会Ⅲ(法と社会)		配当開始年次	1
担当教員			単位数	2
授業概要		授業計画(テーマ)		
<p>知を「科目」に分け、整理し、深く探求することは、知の体系化に寄与してきました。学習にも活用され、中学や高校に進学するたびに科目は細分化し、大学では更に専門化し細分化された科目が多くなります。しかし一方で、その知の体系から外れる課題の解決には、科目横断的に知をネットワークし、思考することが不可欠です。科目の枠組みを超えて、抽象的ではなく具体的に学ぶ行為を通じて、問題を考え、他者と共有し、解決するトレーニングするのが総合科目B「現代社会Ⅰ～Ⅹ」です。授業では、一つのトピックを多角的に考え、理解し、授業内でレポート等にまとめる作業を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション(本科目の射程;アカデミックスキルズ;法とは何か)</li> <li>2. 基礎法学1(どのような法があるか;法学とは何か)</li> <li>3. 基礎法学2(世界の法体系とその歴史を知る/裁判官のモノの考え方を法思想史のなかにみる①)</li> <li>4. 基礎法学3(世界の法体系とその歴史を知る/裁判官のモノの考え方を法思想史のなかにみる②)</li> <li>5. 基礎法学4(日本の司法手続を知る;日本の立法手続を知る)</li> <li>6. 基礎法学5(法を解釈するとはどういうことか;難解・特殊な法令用語を整理する)</li> <li>7. 中間総括1</li> <li>8. 中間総括2(これまでの振り返りと授業内中間小テスト[論述形式])</li> <li>9. 実定法学入門とスポーツ関連事例1</li> <li>10. 実定法学入門とスポーツ関連事例2</li> <li>11. 実定法学入門とスポーツ関連事例3</li> <li>12. 法と社会の諸問題1</li> <li>13. 法と社会の諸問題2</li> <li>14. 全体総括1</li> <li>15. 全体総括2(これまでの振り返りと授業内学期末クイズ[択一形式])</li> </ol>		
到達目標				
<p>以下の重なりあう4つの力を養成します。  理解力:物事を自分で考え直す力  着眼力:そもそも何が問題になっているのか見極める力  領域横断力:既存の枠組みにとらわれず自由に発想する力  まとめ力:物事をまとめ、他者に伝える力</p>				
受講・学習上のアドバイス		評価方法		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記4つの力を常に意識して受講して下さい。</li> <li>・授業中にレポートを書いてもらうことがあり、それが成績評価対象となりますので、欠席をしないようにして下さい。(事前学習2h・事後学習2h)</li> </ul>		評価項目	割合	評価基準等
		試験	%	試験期間中における期末試験は実施しません
		レポート	100%	計5回程度求める講義ペーパー、中間小テスト、学期末クイズなどの総合評価
		その他	%	本科目は出席が学修の重要な前提となるので、正当な理由なき欠席が1/3を超える場合は、成績評価の対象外
教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考)		参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考)		
<p>○授業内容の目次の骨子を示したレジュメあるいは参考資料を配布し、授業はこれらに基づいて進行させる。  -----以下、参考書(右欄へつづく)-----  『法学入門』新版、田中成明、有斐閣、2016年、978-4641125858  『法思想史』第2版、田中成明ほか、有斐閣、1997年、978-4641059726  『法学講義』、笹倉秀夫、東京大学出版会、2014年、978-4130323710</p>		<p>『法思想史講義(上・下)』、笹倉秀夫、東京大学出版会、2007年、978-4130323406; 978-4130323413  『法哲学講義』、笹倉秀夫、東京大学出版会、2002年、978-4130323253  『法解釈講義』、笹倉秀夫、東京大学出版会、2009年、978-4130323567  『法律学小辞典』第5版、高橋和之ほか編、有斐閣、2016年、978-4641000292  『演習ノート法学』、水辺芳郎編、法学書院、2010年、978-4587311933 ※スポーツと法に関する参考文献は講義中に適宜案内する。</p>		
その他				
【担当形態:単独】				
<p>○1週間に最低1度は、本科目に関する授業外学修(予習・復習)の機会を設けるようにして下さい。○講義内容に関する質問は、授業中であっても随時歓迎します。○授業中の、他の履修者の迷惑となる行為(私語、頻繁な入退出など)や、授業の秩序を乱す行為(携帯・スマホ使用、テレビや音楽などの視聴、睡眠、食事、化粧、他科目の内職など)は、厳に慎んでもらいます。○授業の録音・録画・撮影は禁止します。毎回きちんとノートをとり(≠板書を写す)、授業後にノート整理の時間を必ず設けて下さい。</p>				
ディプロマ・ポリシーとの関連性				
<p>②武道、体育及びスポーツに関する様々な課題に対し、幅広い教養と国際的感覚を持ち、主体的に判断し対応することができる。</p>				